

別府鉄道 探訪

鉄道が開通し、いよいよ別府鉄道が始動しますが、昭和の全盛期を迎えるまで何事も順風満帆に進んだ訳ではありません。今回は、大正12年の開通から昭和20年の戦後までの様々な出来事をご紹介します。



▲野口駅付近の国鉄高砂線（左）と別府鉄道（右）このあたりの線路も撤去されていたと思われます。

別府鉄道の本来の役割である貨物輸送については、開業以降、出荷先も全国に広がり、その収入も順調に増加の傾向にありました。しかし、一方の旅客輸送はというと、土山線の開通と前後して、神戸姫路電気鉄道（現山陽電鉄）が明石―姫路間を開通させたことにより客足を二分されることとなり、その収入も思わしく伸びてはいきませんでした。

さらに、第二次世界大戦が始まったことにより、「レールを撤去し兵器の製造資材に」という国の命令を受け、野口線の線路がはがされるという不運な出来事がありました。この時、別府鉄道には「軽便鉄道」と名が付いていたので、主要な鉄道よりは低い水準の規格で建設されているケーブルカーなどと同じ扱いを受け、その必要性・必然性を疑われ撤去されました。

その後、戦争が終わった翌年の昭和21年に別府軽便鉄道株式会社は「別府鉄道株式会社」に社名を改めています。そして、野口線が線路を取り戻し、鉄道として復活したのは昭和22年のことでした。

鉄道まめ知識

別府鉄道開業当時、軽便鉄道法という全8条しかない法律が公布され、全国的に軽便鉄道ブームが起っていました。「手軽で簡易」に鉄道が建設できる代わりに、一般の鉄道の規格よりも低い水準でつくられることが多く、現在ではそのほとんどが廃止されています。

*このコーナーでは皆さまからの「別府鉄道の思い出」を募集しています。（郷土資料館）



このコーナーに登場してくださる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画調整課

はりま藤の会

代表 藤本貴久子さん



▲たくさんの人の笑顔と出会います

町の人口 6月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,267人(-7人) 男...16,753人(-2人) 世帯数...12,777(-22) 女...17,514人(-5人)



活動の内容は？

南部コミセンや福祉会館で着付けのお稽古の後、依頼に合わせてステージの練習をしています。

様々なまつりや、敬老会、町内外の社会福祉施設でのボランティア、国際交流や市町交流の催しへの参加など。

グループのモットーは？

今の世相は変化が激しいです。でも、人に対する感謝の気持ち、思いやりは変わりなく、持ち続けたいと思い、人と人のふれあい「和」を大切にしています。

元気が一番。すてきな出会いに感謝し、大勢の方との出会いを楽しんでいます。

最近の出来事など

徳島へ行き阿波踊りを勉強しました。腹話術や手品などいろんな芸を身に付け、人々に楽しんでもらうことを誇りに思っています。